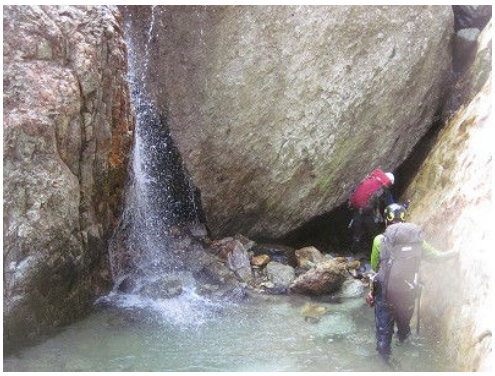
御神楽岳　広谷川・ム沢右俣

福永

【日時】2012年9月1日（土）～2日（日）
【メンバー】L木下、栗原、前田（た）、福永

トマに入会してからもうすぐ 3 年が経つ。いつの間にか毎週末の山行が習慣になった。平日が忙しくても、沢に入り焚き火を囲みたいと思う。そんな気持ちを察して下さったのか、私にはまだ難しいはずのム沢パーティーに迎えられた。

9/1 晴れ
前泊地を 5:30 起床。緊張のせいか眠さは感じない。湯沢の出合から入渓する。広谷川本流はグリーンタフの優しいナメの雰囲気。登山道歩きが暑かったので積極的に水に入る。御神楽沢出合で棚橋パーティーと明日の再会を約束し、我々は本流ム沢に入る。下の大滝までのゴーロ歩きは、栗原さんも前田さんも軽い足取りで加速気味。木下さんの「先は長いからそんなに飛ばすな」の声でブレーキがかかり、内心ほっとした。下の大滝 12m はスパイクを履き、右岸の灌木帯を小さく巻く。巨岩地帯に入り、4m の大岩の通過は、10 年前の記録によると、アスレチックのようにくぐるとあったが、穴が塞がったのか岩の間からは抜けられない。岩と接するツルツルの右壁を、栗原さんが絶妙なバランスで突破し、我々は空身でショルダー&ゴボウ&お助けで続く。左俣を分け、上の大滝の連瀑帯は左岸ルンゼから栗原さんがロープ 2 本を引いてとりつく。30m の大滝を眼下に見ながら大きく巻く。4 人なので、栗原さんと木下さんがツルベでリードしている間に前田さんがフィックスされた 2 本目のロープをアッセンダーで登る。私は最後に前田さんに確保して貰いながらフォローで登る。強い日差しを避けられず暑いのと緊張感から喉も乾いたが、明るい緑の谷に癒された。1P 直上、2～3P 灌木を頼りに左上、4P トラバースで滝上部に導かれ落ち口に到着。核心部を抜けた安堵感で皆、穏やかな表情をしていた。



次の 10m の滝は、栗原さんが右のルンゼに取りつくも、やはり悪くスパイクを履く。草付きの急な斜面をトラバース気味に 1 ピッチで抜けると灌木が出てくるので一安心、その上の 10m 滝も巻いたところで降りる。ここからは幕場を探しながら進む。釜を持つ小滝が連続して現れ、もうすぐ幕場なのに…と浸かることを少し躊躇しつつも、4 人とも水に入り簡単に通過した。沢が開けると、ム沢唯一の快適な幕場に到着。スノーブリッジは橋脚部の残骸を残すも、寒さを感じさせる程ではなかった。玉ねぎやキュウリを使ったおつまみが前田さんからでてくると、これで軽量化なら普段はどれだけ持ってくるの？と笑いを誘う。満月が明るかったが、木下さんは流れ星をいくつも見つけていた。焚き火と夜空が気持ち良く 21 時まで粘ってから、ツェルトに潜りこんだ。

9/2 晴れのちガス

スノーブロックの崩れる音を聞き、7 時に出発。明るい源頭部の雰囲気が漂っていたが甘くはなかった。安易に取りついたスラブが私には厳しく、木下さんにロープを張って貰いアッセンダーで登る。傾斜は更にきつくなり、もう 1 ピッチ伸ばして貰い、最後は小藪をかき分けて登山道に出た。なんと本名御神楽岳の山頂にダイレクトにつきあげたのであった。途中で右のルンゼに入るとロープを使わずに最低鞍部に出られるらしい。山頂で景色を見ていると煤孫パーティーがやってきて会山行らしくなってきた。登山道を 30 分歩き御神楽岳に行くと笹川パーティーが迎えてくれた。棚橋パーティーがスラブを登ってくる姿を遠目に見たりしながら、会心の夏の集中が成功しつつあるのを感じていた。

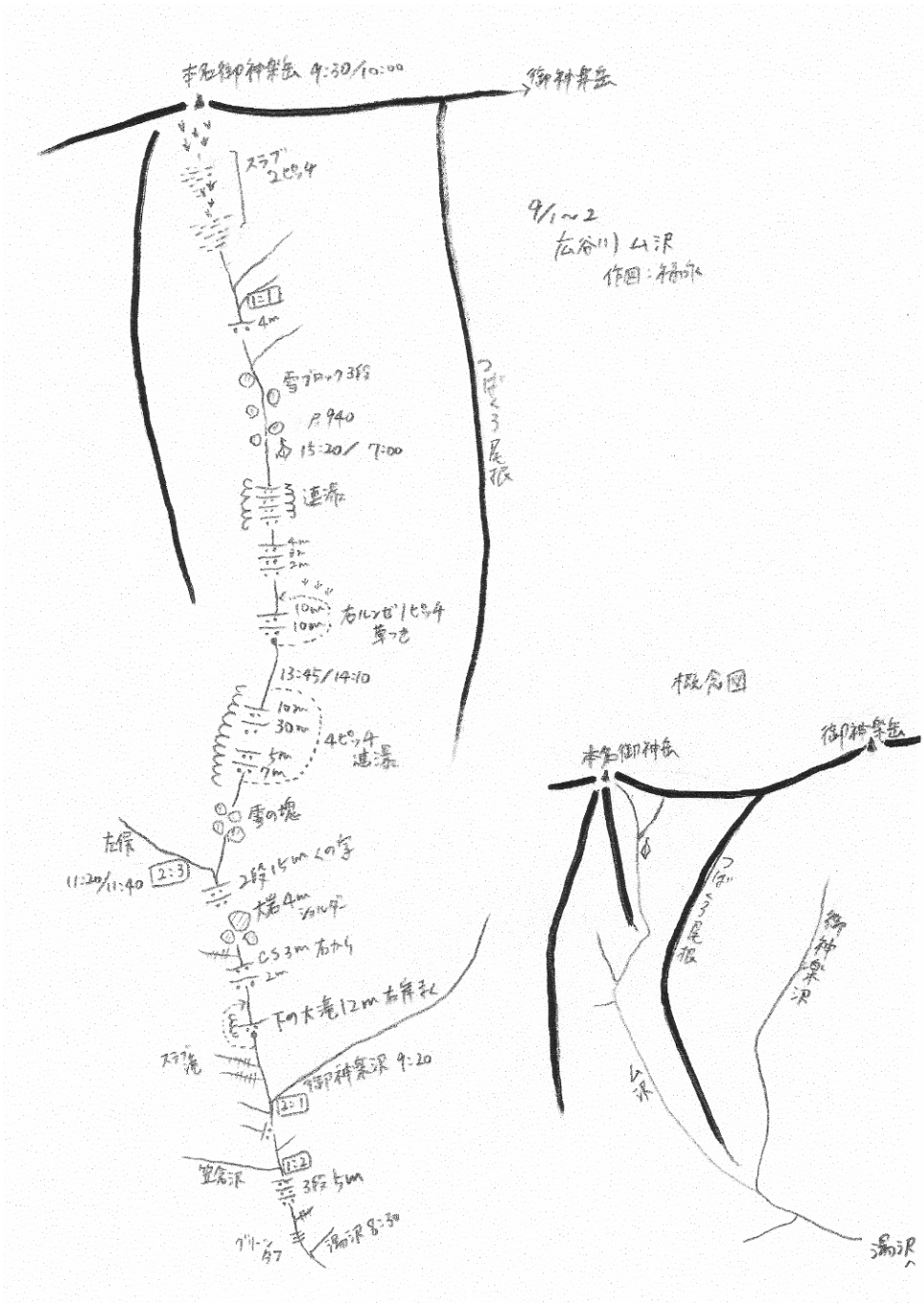
【行程】

9/1　林道終点（7：30）～湯沢出合（8：20/8:30）～御神楽沢出合（9：20）～左俣出合（11：20/11:40）～上の大滝終了点（13：45/14：10）～C940付近・幕場（15：20）

9/2　幕場（7：00）～本名御神楽岳（9：30/10：00）～御神楽岳（10：30/12：00）～セト沢林道登山口（14：00）

【グレード】4級下

【地形図】御神楽岳


本名御神岳 9:30/10:00
御神岳
スラブ 2ピッチ
9/1～2
右谷川ムイ沢
作図：福永
1:1
4m
雪ブロック3段
P940
13:20/ 7:00
連瀑
4m
2m
10m
10m
右ルンゼ1ピッチ 草つき
13:45/14:10
10m
30m
4ピッチ 連瀑
5m
7m
雪の塊
左俣
11:20/11:40
2:3
2段15m くの字
樋4m ツルダ
CS3m 右から
2m
下の大滝12m 右巻き
スラブ滝
御神岳沢 9:20
2:1
宜名沢
1:2
3段5m
グリーン谷7
湯沢 8:30
つばくろ尾根
概念図
本名御神岳
御神岳
つばくろ尾根
御神岳沢
ムイ沢
湯沢へ

御神楽岳　前ノ沢左俣

野村

【日時】　2012年9月1日(土)～2日（日）
【メンバー】L小暮、鈴木、古野、野村

9月の会山行といえば夏の締めくくりとしてそれなりのレベルのところに繰り出すのが常だが、今回は御神楽岳にありながらも易しめの沢を割り当ててもらい、楽しませていただいた。

セト沢林道に車はデポし前ノ沢林道を歩くこと30分、前ノ沢を横切るところから入渓。しばらくはゴーロ歩き。20分ほどで二俣となり、左俣に入った。

少し行くと釜をもった3mの樋状の滝。右岸のリッジに乗ってから水流に進む。この後も、1-2mの小滝が、時折3mクラスを交えながら続く。

最初の 3m 樋状の滝

ちょこちょこと写真を撮りながら歩を進めていたら、カメラを落としてしまった拍子に電池が飛び出し、水の中に落としてしまった。それが結局見つけられずおいてきてしまったことが、小さな電池ひとつではそんなに環境に影響しないとは思うもののちょっと心残り。

沢が東向きからやや南に方向を変えたあたりからナメ小滝が多くなる。標高650mぐらいからは若干滝のスケールが大きくなるが、ザイルをひいて登るほどのものはなく、ほとんどずっとリードしてもらった小暮Lに時折おたすけをもらう。

標高800mで左から合わさる支沢沿いで幕場をみ

つけ、高台を少し整地して今宵の宿とした。たっぷりのお酒とつまみで今年の夏の終わりのひと時を堪能。

翌朝は、まだ先は長いとみて4:00/6:00で起床/出発した。

小滝とナメがしばらく続き、そのうちに両手が届くような小さな釜が連続して現れる。わりと最後の方まで水も枯れず、最後の藪漕ぎもわずか10分ほどで9時前には登山道に出た。ゆっくりと休んだ後、御神楽岳山頂に移動し、一番乗りで他のパーティーを迎えることができた。

山頂でこそ若干雨にも降られましたが、概ね天候にも恵まれ、全パーティーが予定通りに集中できたのはすばらしいですね。係の方は本当にありがとうございました。

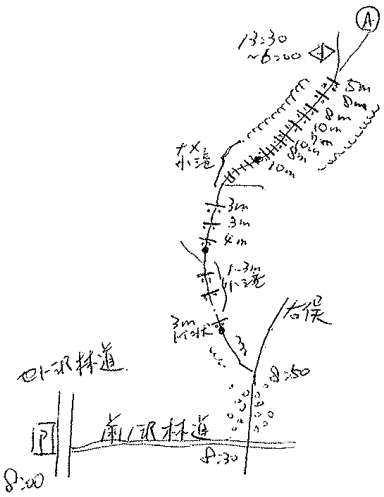
両手の届く釜

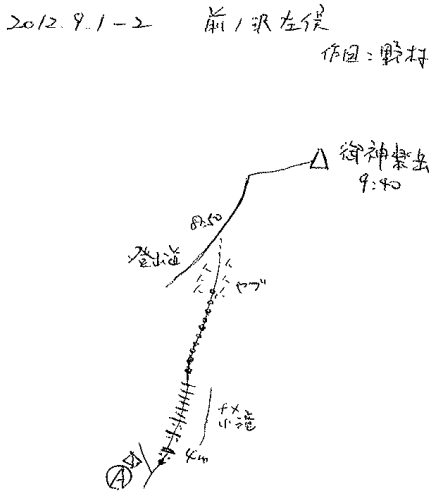
【グレード】2級上

【行程】9/1　セト沢林道(08:00)～前ノ沢入渓(08:30)～二俣(08:50)
～標高800m付近C1(13:30)

9/2　C1（06:00)～登山道（08:50）～ 御神楽岳山頂(09:40/11:50)
～セト沢林道登山口（14:00)

【地図】御神楽岳



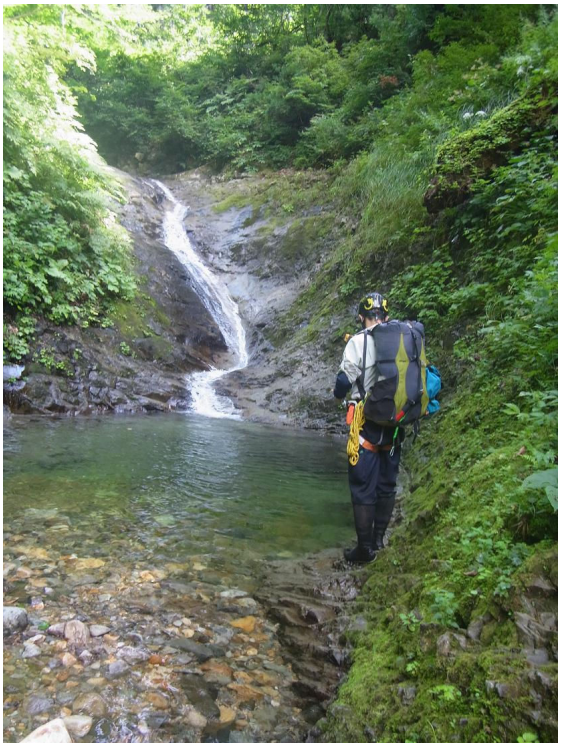


数年ぶりの沢泊りを満喫！

会越国境　霧来沢鞍掛沢

小磯

【日時】　2012年9月1日(土)～2日(日)
【メンバー】L五十嵐、横山、佐藤、小磯



前夜道の駅「みしま」で仮眠し、　ダム沿いの霧来沢林道に入る。以前（といっても5年以上前）はかなり手前までしか入れなかったが、よく整備されており問題なく終点（本名御神楽岳登山口）まで入ることができた。鞍掛沢出合までは登山道を40分程歩く。途中、豪快な八乙女の滝あたりでアップダウンがある以外は殆ど平坦な道だ。沢全体がナメとなる綺麗なところの先が鞍掛沢出合だが、少雨のせいか水量が少ない。ゆっくり休憩して入渓するとすぐに釜のある小滝が続き、横山さん、五十嵐さんが竿を垂らす。釜といってもそれほど深くはなく、大方の予想通り釣果は無しに終わった。今日は行程も短く、また地形図から上部は幕営適地が乏しいことが想定されたので、入渓して30分ほど過ぎたあたりから適地を探しながらの遡行となる。すると標高600m付近が開けており、快適に泊れそうなので内心「ここに決定！」と思いつつ、時間もあるので二俣まで行ってみましょうということになった。その後は進むにつれて両岸が狭まり、またところどころ密集した倒木で荒れた渓相となる。二俣で左俣は10m程の滝となっており、五十嵐リーダーが上流の様子をうかがうべく高巻いてみるが、適地は無さそうということで引き返すこととなった。時間にしてまだ13時前。ツエルトを張って長い宴に備えて薪を大量に集め、ツマミを作り始める。相変わらずの暑さで夕方になってから焚火開始となった。久しぶりだと焚火をいじっているだけでも楽しく感じられ、しばし下界の生活を忘れ火を眺めながらの宴を満喫した。

翌朝、すっかり深酒をして虫対策をおろそかにしたせいか、気がつけばツエルトの外に防虫ネット無しで寝ていたようで、数十か所顔や手を刺されていた。痒さに耐えながら準備して出発。二俣の滝を右から高巻き、その先もいくつか小滝を越えていくが、このあたりは大きな倒木が連続し、かなり荒れている。屈曲点を過ぎ、８時の無線交信（不

通）を終えたところで渓相が一気に変わり、入口に30m近い滝が門番のようにそびえ立つ。ここは左の悪そうな泥ルンゼから草つき混じりの壁を高巻くしかなく、横山さんがザイルを伸ばして何とか突破。その後も両岸が狭まる中、７～８ｍクラスの滝を越えていく。下流部と違い簡単に登れないところもあり、お助けを出したり荷揚げしたりして時間がかかってしまった。出発時は早めに集中場所に着けると思っていたが、ここにきて10時の段階でまだツメきれておらず、空模様と同じく暗雲が漂ってくる。その後はところどころスラブ状の滝なども出てきたが悪いところは殆ど無く、途中沢型を外し藪に突入しながらもとにかく上に早く抜けられそうなところを拾って高度を稼ぐ。何とか11時過ぎに稜線着、休みもそこそこに切り上げ、各自できるだけ急ぎ足で御神楽岳を目指す。すでにビリはほぼ確定していたが、新潟県側のパーティーが下山を開始するまでに何とかたどり着けるよう、懸命に歩いて何とか集中時間の15分前に到着することができた。わずかな時間ではあったものの、久しぶりに山で顔を会わせる人も多く、改めて集中の面白さを実感。集合写真のあと、新潟県側のパーティーを見送り、最後に下山開始、御神楽岳東面や前ヶ岳南面の見事なスラブを堪能しながら下った。

久しぶりの泊まりの沢で不安はあったものの、何とかついていくことができ、また最近入会された３人と初めてご一緒できて集中も無事成功と、個人的には満足度120%の山行でした。

【グレード】2級

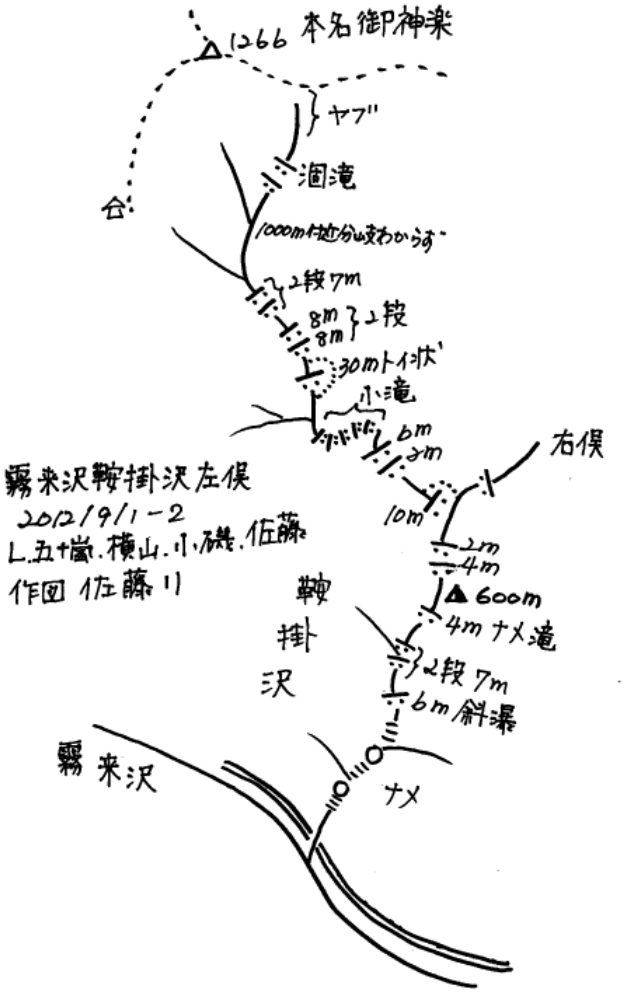
【行程】

9/1　林道終点(10:00)～鞍掛沢出合(9:10/9:40)～二俣(11:15)～(戻る)600mBP(12:50)

9/2 BP(6:30)～二俣上(7:00)～30m滝下(8:00)～稜線(11:10)～御神楽岳(11:45/12:10)～林道終点(14:30)

【地図】

御神楽岳,狢ヶ森山



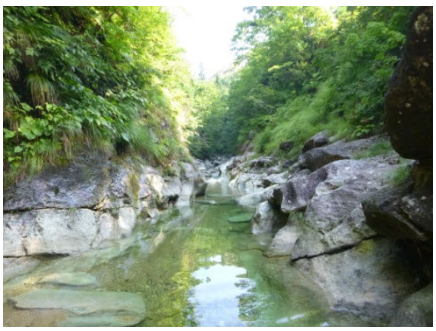
会越国境　御神楽岳 大鍋又沢沼ノ入沢左俣

大平

【日時】　2012年9月1日(土)～2日(日)
【メンバー】　L煤孫、SL佐藤、大平

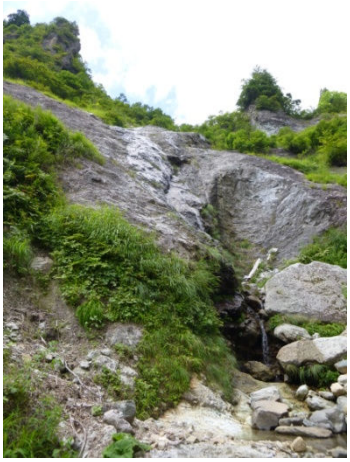
9月1日(土)晴れ

前夜、道の駅みしまにて仮眠をとる。翌朝、本名の御神楽岳登山口へ向かう、435地点手前の駐車スペースに車を停める。身支度を済ませて、8:27に出発。大鍋又沢沿いの林道終点から踏み跡を辿って入渓する。


出だしの美しい渓相

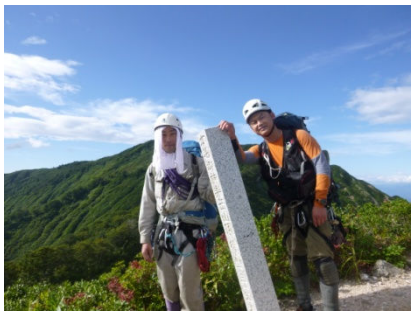
沢自体は、ゴルジュ状であるが、厳しいところもなく、穏やかな美しい渓相が続く。澄んだ緑色の水流をトボトボ歩きながら進んでいく。ほどなく右岸から古滝沢が出合う。次第に、両岸スラブに覆われ、ナメ床が目立つ。一か所大釜を備えた小滝があり、右からへつりながら通過する。1時間強で変則三俣に到着する。ここは左俣を進み、沼の入沢に入る。水量も少なく、しばらくは単調な河原歩きが続く。30分ほどで左俣出合に到着する。ここで、10分ほど休憩を取る。メジロアブも思ったほどおらず快適だが、それにしても暑い。

左俣に入ると、沢幅も狭くなり、小滝が現れるがどれも直登できる。そのうち、3m滝はホールド・スタンスが少々細かい。続いて、5mCS滝は左側から登る。ホールド・スタンスともに豊富で問題はない。左から枝沢を流入する。その後も直登できる小滝が続き、楽しい。その後、680m付近で左から枝沢が入るが、右に進み、ほどなく別の枝沢が入り、こちらは左を進む。その後すぐに20mスラブ状大滝が現れる。直登は難しいので、左側から巻くことにする。左側の沢筋を詰めるが、草付きでなかなか厄介だ。途中から、耕至さんがトップとなり、進みやすいところを選んでもらいながら、後続が続く。高巻きに30分ほどかかったが、無事大滝上に到着した。


20m大滝　左から巻く。

ここで休憩した後、行動再開。この後もナメ滝や小滝を登っていく。最後、水を補給し

て、枝沢を右に進む。この後、最後20分ほど藪こぎになったが、無事に、稜線上に到着した。

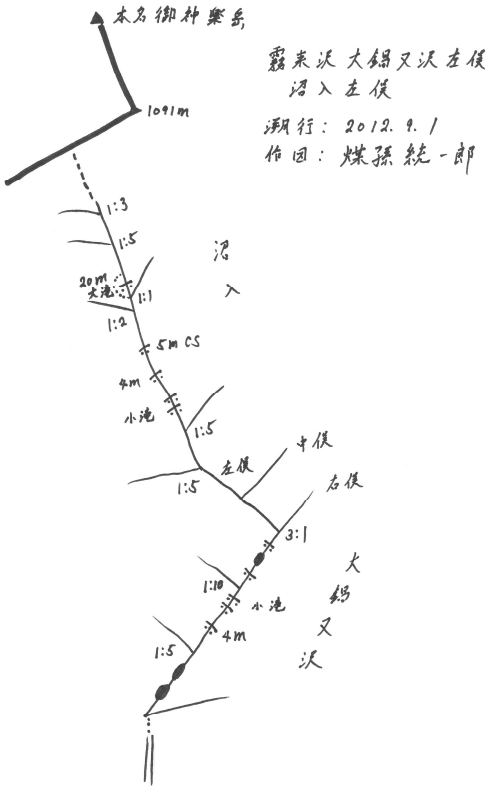


本名御神楽の山頂にて

稜線上は、踏み跡も付いており、本名御神楽まで続いていた。1091付近で大平が蜂に刺されたので、ポイズンレムーバーで処置する。行動する分には問題ないので行動再開とする。その後は、稜線上を進み、本名御神楽に到着した。ここで、無線交信を兼ねて大休憩をとる。その後は、登山道を15分ほど下った御神楽岳管理舎で幕とする。小屋の裏を下ったところに水場もあり、快適な夜が過ごせた。

9月1日(土)晴れ時々曇り一時雨

今日は、集中を残すのみなので、遅めの出発とした。大平の蜂刺されも特に腫れずに行動に問題はないので、計画通りの行程とする。1時間弱登山道を進んで、御神楽岳に到着した。他のパーティを待つこと1時間ほどで、無事に全パーティが集中した。記念撮影を済ませた後、登山道を下って、帰路に就いた。



【グレード】　2級
【地形図】　御神楽岳・貉ヶ森山
【行程】
9/1(土)　435地点手前の駐車スペース(8:27)～右俣出合（9:40)～沼の入沢左俣出合(10:10/20)～稜線(13:20/35)～本名御神楽(14:55/15:25)～御神楽岳管理舎(15:40)

9/2(日)　御神楽岳管理舎(9:40)～本名御神楽(9:55)～御神楽岳(10:35/11:58)～御神楽岳管理舎(12:30/12:42)～駐車スペース（14:43)